

# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	奈良県
推進地域名	天理市・生駒市 河合町

## 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について

テーマ1	学校における食に関する指導の充実させるための方策
<b>教職員の資質向上を目的とした研修会等の開催</b>	
1 栄養教諭・学校栄養職員を対象にした研修会の開催 (6月21日 参加者87名・8月25日参加者27名・1月12日参加者 85名) 目的：栄養教諭・学校栄養職員の指導力向上 「食に関する指導について－養護教諭との連携－」 講師：関西福祉科学大学 教授 大川 尚子 氏 「家庭科における食育について」 講師：奈良教育大学 教授 大家 千恵子 氏 「食の安全と放射線の影響」 講師：奈良教育大学 学長 長友 恒人 氏 「中央研修会伝達」 報告者：奈良市立六条小学校 麻谷 明美 学校栄養職員 報告者：吉野町立吉野小学校 森脇 尚子 栄養教諭	
2 教職員を対象にした研修会の開催 目的：教職員の指導力向上 食育担当者研修会 (7月28日 参加者468名・8月2日 参加者258名) 「食と脳の関係、朝食の重要性」 東北大学 教授 川島 隆太 氏 「食と農」 近畿農政局 指導者 中尾 卓嗣 氏 学校・園における食育実践発表：葛城市立新庄幼稚園 上牧町立上牧第二小学校 河合町立河合第二中学校 県立奈良東養護学校	
家庭科教諭を対象とした研修会 (7月25日 参加者34名) 「家庭科教育における食育について」 講師：奈良教育大学 教授 大家千恵子 氏 実習講師：保健体育課 主査	

## 教職員対象の研修会

「充実した食に関する指導研修講座」(8月22日 参加者32名)

大和野菜を使った調理実習

「 - 大和野菜をおいしく食べよう - 」

講師：畝傍高等学校 家庭科教諭 福西知子 氏

「学校における食育の取り組みについて」

実践発表者：奈良市立都跡小学校 学校栄養職員 窪田 匡永 氏

## 新規採用小学校教諭対象研修会

「学校における食育推進について」(8月9日 参加者169名)

講師：保健体育課 主査

## 3 管理職を対象にした研修会の開催

目的：管理職として食育推進への理解を深め、リーダーとしての資質向上  
食育推進管理職研修会(9月8日 参加者210名)

「学校における食育の推進 - 体制の必要性 - 」

講師：姫路市総合教育センター管理指導主事 中島 輝久 氏

「奈良県における児童生徒の食生活等実態調査報告」

講師：奈良県教育委員会 保健体育課 担当

## 4 高等学校を対象とした研修会の開催

目的：スポーツをする生徒の食育について講義を受け、自主的に食について考え、望ましい食生活を実践する生徒の育成を図る。

県立郡山高等学校(12月12日 参加者800名)

「 - スポーツ栄養、競技力向上と食 - 」

講師：近畿大学農学部 助教 明神 千穂 氏

先進地視察 和歌山市

先進的に取り組んでいる事例について紹介を受けた。

## 実践校及びその地域における食育推進

### 1 実践校における研修会等の実施

・河合第一小学校食育推進研修会 (9月14日参加者41名)

参加対象者：小学校教職員

講師：近畿大学農学部 助教 明神 千穂 氏

「食育の重要性について」

・河合第一小学校食育講演会 (10月14日参加者 45名)

参加対象者：保護者・小学校教職員

「食で育む心と体 - 今子どもたちに伝えたいこと - 」

講師：保健体育課 主査

・真弓小学校食育推進研修会 (12月13日参加者95名)

参加対象者：小学校教職員、保護者

「食で子どもを育てる」

講師：近畿農政局 指導者 中尾 卓嗣 氏

・天理市立南中学校食育推進研修会(10月18日参加者生徒140名・教職員30名)

参加対象者：2年生生徒全員、教職員、保護者

講師：天理大学 管理栄養士 松本 範子 氏

「中学生の健康と食生活について」

・天理市立南中学校食育授業 (12月13日参加者1年生150名)

参加対象者：中学1年生

講師：近畿農政局 指導者 中尾 卓嗣 氏

「食を科学する - 美しいって、カッコイイって」

### 2 実践校における地場産物活用、朝食の充実等に向けた親子料理教室等の実施

目的：子どもたちの実践力を培う

- ・河合町河合第一小学校親子料理教室 9月23日  
指導者：管理栄養士 小川千賀子氏
- ・真弓小学校お手前体験学習 12月2日  
指導者：中山眞弓氏 杉本幸子氏 出原幾久氏
- 真弓小学校親子料理教室 1月24日  
指導者：管理栄養士 中川 昌代 氏
- ・南中学校 幼稚園 お弁当参観にける講話 11月17日 対象：幼稚園保護者  
講師： 管理栄養士 中川 昌代 氏

### 3 実践校連絡会議の開催

目的：実践校における情報交流及び効果的な食育の取り組みの検討

第1回実践校連絡会議の開催 5月19日 事業説明及び食育推進について

第2回実践校連絡会議の開催 8月18日 実践校意見交流会

第3回実践校連絡会議の開催 1月 5日 各校における事業実施報告

## テーマ2 学校と家庭、地域との連携による食に関する指導の充実

1 食育の大切さ、楽しさを家庭・地域に啓発させることを目的に、わくわく学びフェスタにおける食育展実施した。準備委員会を3回開催した。(8/7 9/16 10/7)

### 【わくわく学びフェスタ食育展】

#### 「野菜手ばかり体験」

：毎日の食生活に必要な野菜の量を実物を使って実際に量ることで理解する。

#### 「はてなボックス」

：野菜などを箱に隠し触って名前を当てる。子どもたちが楽しんで食品に興味を持つ。

#### 「豆つまみ」

：箸の正しい持ち方を知り、ゲーム感覚で箸を使って豆つかみ行う。

#### 「おやつを選ぼう」

：おやつのカードを使って実際に食べたいおやつと食べてもいいおやつを比べておやつの正しい選び方を学ぶ。

#### 「魚釣りゲーム」

：低年齢の子どもを対象に、紙で作った魚を釣り上げる。魚江の興味関心を高める。

#### 「栄養バランスのとれた食べ方を考えよう」

：パソコンを使用して献立作成し、適切なカロリーやタンパク質などチャートグラフで確認する。



【体験ブース】



【はてなボックス】



【手ばかり体験】



【おやつ選び】



【豆つかみ】



【魚釣りゲーム】



【学校給食メニュー紹介】

### テーマ3 学校給食を充実させるための方策

学校給食の充実を図る研修会（調理員対象調理実習を含む）の開催

（7月21・22日参加者86名）

「郷土料理・大和野菜を学校給食に活用するには」

「大和野菜を活用した給食献立調理実習」

講師：フードコーディネーター 松田 弘子 氏 糸井 さやか 氏



【実習献立】菜めし、七色炒め  
飛鳥汁風ミルクスープ  
大豆のカaramelソースがらめ

実習献立は奈良県の伝統的な郷土料理をアレンジし、学校給食で再現しやすいよう工夫している。

### テーマ1～3に共通する具体的計画

朝食摂取状況の改善とともに朝食内容の充実を図ることを目的に食育啓発資料を作成・配付した。

第1回作成会12月15日・第2回作成会1月13日

- ・朝食のはたらきを示し、朝食は毎日何かを食べるだけでなく内容も充実させることが重要であることについて啓発する。
- ・奈良県が伝統野菜として承認している特有の野菜について、奈良の伝統野菜について啓発する。



### 数字で変化のあった事項について

#### 学校給食の地場産物活用割合

平成16年度 10.7% 平成21年度 23.9% 平成22年度 25.6%

#### 研修会等への参加者（県教育委員会主催事業 のべ数）

平成22年度 431名 平成23年度 1135名

## 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

教職員を対象とした研修会では、食の重要性をテーマに食と脳の働きについて、脳科学研究者である東北大学川島隆太教授から、また食と農、家族をテーマに近畿農政局の中尾卓嗣氏にご講演いただいた。また、県内の先進的な取組について1園・3校からの実践報告を組み入れ実施したところ、参加者から高評を得、食育の重要性を啓発することができた。

管理職対象に食育推進研修会を開催した。「学校におけるリーダーシップの取り方」について講義を受け、食に関する指導の重要性・必要性への理解が深まり、学校長の意識が向上し、徐々にではあるが学校における食育の後押しされるようになってきている。

今年度より新規採用者の配置校を実践校とし、その近隣地域で食育推進事業を実施したところ、各校において栄養教諭への協力体制が充実し、授業へのアドバイスをしたり、食に関する指導への理解が深まり、これまでより推進体制が整備・活性化され、取組が充実した。

また、実践校での栽培体験学習や料理教室の実施は効果的で、子どもたちが生き生きと活動し、自分たちの食べているものに対し興味関心をもつだけでなく、意欲的に取り組むことで実践力の育成や感謝の心の育成にもつながった。

保護者対象の講演会や親子料理教室では食育への積極的な意見が多く、食への関心を高めることができた。実施に関しては、地域住民から食の伝承者や農業従事者がゲストティチャーとして活躍するなど、地域の協力体制も強化されつつある。

新規採用者ということで年度当初はなかなか事業を進めることができなかったが、訪問指導等を通して徐々に栄養教諭の学校での動きが活発になり、管理職をはじめ、推進部などの組織が動き、全体で取り組んでいくことができた。このように、新規採用者であっても活動を支援することで学校での食育が進んでいくという成果が得られた。

食育展では、約600人の親子の参加を得ることができた。保護者と子どもたちが楽しく食に関するゲーム等を体験することで食育は楽しくできるというメッセージを発信し食育の重要性を啓発することができた。

## 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

食育に取り組む中で、朝食欠食者の減少、家庭の意識の向上、食事の内容の充実など、食にかかわる実態が徐々にではあるが改善されている。

しかし、朝食欠食者は少ないものの、朝食を食べない日もあると答えている子どもがいること、朝食欠食者が固定化していること、朝食における孤食が減少しないこと、朝食に野菜を摂取する頻度が少ないことなどまだまだ改善しなければいけない課題がある。保護者の多忙化等家庭の様々な状況の中で、望ましい食習慣の確立はなかなか難しいのが現状、子どもたちの生涯にわたる健康を目標に今後も引き続き学校・家庭・地域が連携した食育の充実が必要と考える。

新規採用の栄養教諭においては、専門性を向上させたり、学校内での連携の取り方を検討したりするために、研修会や定期的な連絡会等をもち情報交換を行うことは重要な取組であるがその機会が多くなれば学校等での勤務を空けることになるので日常業務が滞ることになる。一般教諭の研修制度のように代替え要員を置くなどの対応が課題である。